

バイオロード ～ちゃりんこエコロード～

～概要～

街中では自転車通勤・自転車通学の人であふれているのに、なかなか改善されない道路事情を常日頃通勤しながらの観点で考えました。大気汚染や温暖化が痛いほどわかる状態を「みち」の改善でなんとか少しでも良くできる環境づくりや、全ての人にやさしい「みち」はどういったものが挙げられるかを提案しています。

ピオロード ～ちゃりんこエコロード～

福岡の街は人口増加に伴い、近年都市化が非常に進み、30年間福岡に住んでいる身からすると少し住みにくい環境になってきました。住環境が郊外化し、マンションの乱立や山を崩しての宅地造成なども著しく進んでいます。そして、郊外から都心部への通勤等による渋滞は当たり前となっており、それに伴う大気汚染や温暖化はここ数年で痛いほど体で感じるようになってしまいました。

朝と夕方の渋滞を避けるため、バスではなく自転車を利用する人も随分と増えた気がします。私もその一人ですが、この街を自転車で走りながら常に思うのが、「とても走りにくい」「そのうち事故を起こしそう」ということです。自転車同士や車やバイクとの接触、人との接触、どれが起こってもおかしくない状況です。狭い歩道を人が歩いていれば車道を走らなければならないし、車の多い車道を走るのも危ないので、歩道を走ると歩行者からここを走るなと言われることもあります。では環境に対して最も影響のない交通手段である、自転車はどこを走ればいいのか？これが常日頃の疑問です。

そして、街を走りながらもっとこの街に欲しい、必要だなと感じるものは、緑の空間であったり、虫の鳴き声が聞こえる空間、水のせせらぎ等が聞こえる自然空間です。

そういった空間は人の心にゆとりと安らぎをもたらし、現在多くの人が求めて止まない“癒し”にもつながると思います。

☆☆理想のまち提案☆☆

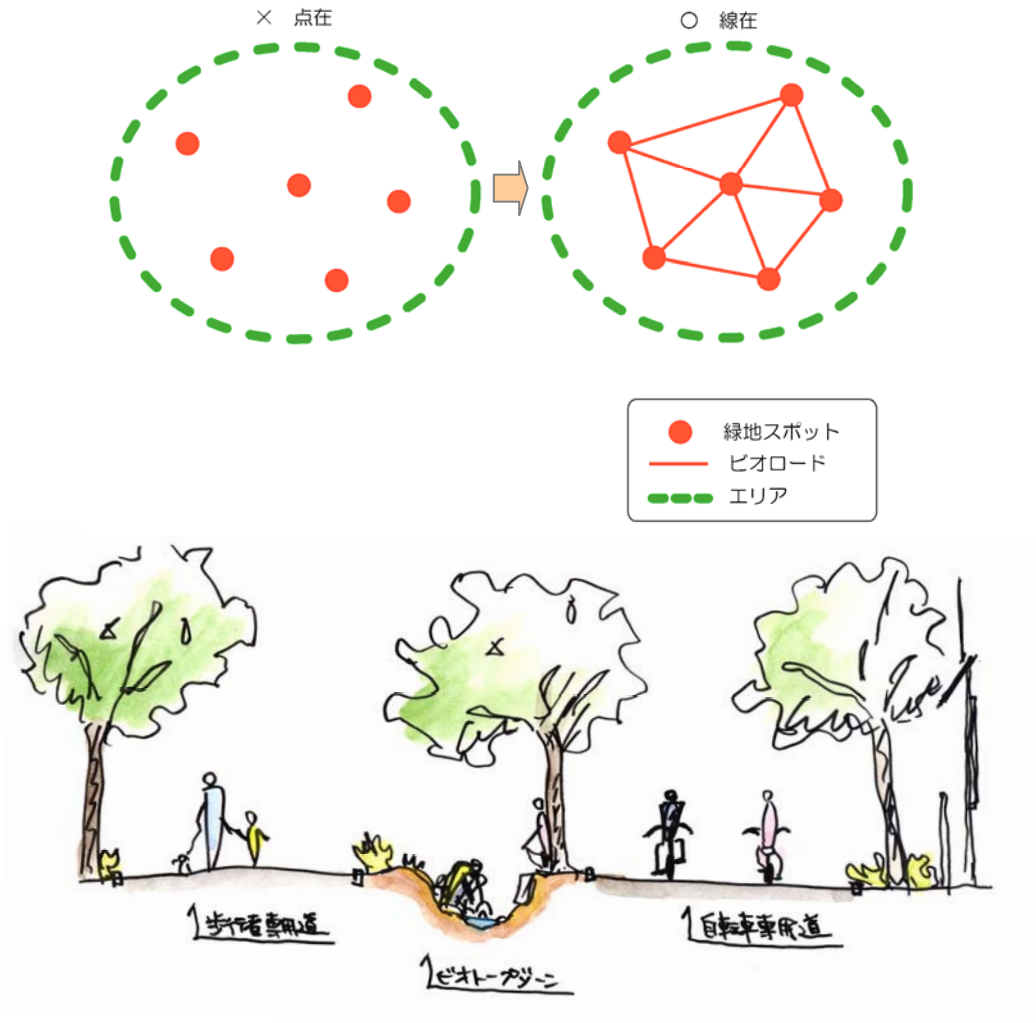
○自転車ロードのあるまち

完全に歩行者と自転車を分離。日本は先進国の中でもかなりの上位にランクするほど自転車利用率が高いにも関わらず、自転車が歩道を走ってもいいとなっているのは日本だけです。車道を整備するよりもずっと安いコストで計画しやすいはずなので、自転車専用道路を作れば、子供からお年寄り、体の不自由な方、動物、全てに今よりも安全な環境を提供できると思います。

○ピオトープづくりのできるまち

都会になるにつれ、学校や幼稚園は多いのに、自然に触れる場がほとんどない状態になっていくのは、'キレル子供'や感情や感動の薄い子供達がどんどん増えていく原因の一つにもなっていると思います。それは大人にも言えることです。大人の意識を変えることで未来の子供達も随分と変わると思います。もっと心の落ち着けるゆとりの空間をまちの中に作らなければ今のままでは息がつまりそうです。そこで、少しでも多く自然に親しめる場が点在ではなく線在するまちが理想です。そして、ただ計画された緑地が整備されるだけではなく、そこに住む人々（特にこども達）が自分達で作れる環境も取り入れられれば、とても良い環境学習の場にもなると思います。

この2つの理想のまちをあわせて、歩行者空間と自転車空間、自然空間を合わせた生活道路ができればより住みよい環境がうまれると考えます。しかし、ただビオトープ空間を置いただけでは誰も寄り付かない場合も多くでてくるため、ビオトープに関する知識を持った人たちを中心に様々なスポットで子供や大人を集めての自然に触れるイベント等を開催するのも一つの手だと思います。



ちやりんこエコロードのイメージ

○その他の提案

- ・ 電車や地下鉄に自転車乗り入れ専用車両をつくる。
- ・ 都心部のみにおいては車は地下も走れる。
 - 地上部と地下部の道路に分け、地上部の交通量を減らすことにより、歩行者、自転車空間、緑空間をより増やす。地下道路は排気システムを考えることにより、より CO₂ の削減を目指す。

- ・環状線道路や高速道路、線路などと一緒にサイクルロードをつくる。
 - 道路脇や高架下などにサイクルロードをつくり、信号も歩行者もいないため、比較的速度も出せる道路。高架となっている場合は何百メートル毎に地上に降りるためのエレベーターを作る。



高架を利用したサイクルロードのイメージ